

令和3年度

中学年授業改善プラン

	児童の課題	改善策
国語 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・段落相互の関係に注意して、正しく文章を書くこと。 ・登場人物の気持ちなどを、叙述を基に想像すること。 ・漢字を正しく読み書きし、活用すること。 ・相手に伝わるように、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・始め・中・終わりの組み立てで文章を書き、文章のまとまりを意識して書く練習を繰り返し行う。報告文、感想文などそれぞれの文の構成に気を付けて書くことができるようにする。 ・物語の叙述から、どのような気持ちが読み取れるか自分で考えたり、友達と伝え合ったりする活動を取り入れることで、イメージを広げていく読み取り方ができるようにする。伝え合う際は、一定の距離を取ったり、プリントを見合ったりして、密を避けるように指導する。 ・漢字ドリルの練習や、日々の小テストに繰り返し取り組むことで、正しく漢字が読み書きできるよう指導する。文章を書くときは既習漢字を使うことを指導する。 ・朝や帰りの会などで、繰り返し「話す」ことを経験させる。話す時にも話の組み立てに気を付けさせ、話の中心が相手に伝わる話し方ができるように継続的に取り組む。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら言葉・表情などで反応し合い、進んで話し合いに参加すること。 ・日常の出来事を振り返りながら、書く内容の中心が明確になるように、一つの事象を詳しく思い出し、広げて書くこと。 ・漢字を正確に書き、文や文章の中で使うこと。 ・3年生で学習したローマ字を書いたり読んだりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業やスピーチ活動、朝の会・帰りの会でも話す・聞く活動を多く取り入れ、必要なことを記録したり質問したりしながら話す・聞く力を育て、自分の考えをもつことができるようにする。友達との意見交換の際には、密に気を付け、一定の距離を保ち、必要以上に近寄らずに活動する。 ・日記・詩・俳句・紹介文、感想文、新聞を書くなど、さまざまな言語活動を取り入れ、目的に応じた文章を書く学習を積み重ねることで自分の意見とその理由を意識して書けるようにする。また、書いたものを推敲する習慣も付けさせるようにする。友達の文章を読み、互いの文章の良いところを見付け、伝え合うようにする。 ・漢字小テストを定期的に行うとともに、作文を書く際には既習の漢字を使って書かせるようにする。国語辞典や漢字辞典をすすんで活用し、自分で調べ、積極的に使うようにしていく。 ・タブレットでローマ字入力の練習をさせたり、身近なローマ字の言葉を読む・書く練習をさせたりして復習を重ね、ローマ字を使えるようにする。
社会 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・大田区の地域の産業や地域の様子の変り変わりについて地図帳や具体的資料を用いて調べまとめること。 ・地域の生産・販売の様子から学習の問題を見出して、追究していくこと。 ・社会的事象について、自分事としてとらえ、自分の考えをもつこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外活動が少ない分、資料や動画を用いる。観察の視点や調査の目的を明確にもたせることで、地域の場所による違いや特色に気付かせ、地図との関連性をつかむことができるようにする。 ・写真や文章資料・地図などを手掛かりに、大田区の特徴を調べる学習を取り入れる。 ・スーパーマーケットの資料を基に視点を明確にもたせて、学習課題を自分から作り、地域の生産や販売の様子を理解する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、自分事としてとらえ、自分の考えをもつこと。 ・地図記号や方位の理解をもとに、土地の様子について地図を読み取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害から人々を守る活動などの社会的事象と自分たちの生活に関連付けて課題を設定する。学習問題が解決できるように、教科書や資料、インタビューなど多様な視点で調べ、分かったことをノートやワークシートにまとめる。 ・地図帳や各種の具体的資料を活用する機会を増やして情報をまとめる力を身に付けさせる。資料を読み取る視点を明確にして指導する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統を受け継ぐ人たちが、地域の人たちなどの思いや願い、努力について理解すること。 ・年間を通して47都道府県の名前と位置を覚え、生活の中で活用すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間と合科的に学習をすすめる。 ・具体的なイメージがとらえられるように映像資料を活用したり本やインターネットで自ら調べたりしながら、人々の思いや願い、努力が身近に感じられるようにする。 ・授業で都道府県の特徴や特産品について触れながら関連する内容を取り上げたりして、都道府県の名前や位置を思い起こすようにする。日本地図のワークシート等で都道府県の名称や位置を継続的に指導する。
算数 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・除法の計算の仕方について理解し、計算すること。 ・数の大きさや長さの量感覚などについて具体的にとらえ、意味や計算の仕方について理解すること。 ・数学的思考力が問われる文章問題について考え、解決の仕方を書いたり説明できたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・等分除や包含除の計算が成り立つ場面をイメージしながら問題が解けるように、具体物を使用して文章問題の場面設定を視覚的に把握したり、順序立てて考えたりする機会を増やす。 ・生活場面を取り上げて「万」や「億」などの位を具体的にとらえられるようにする。また、位取り表や巻き尺などを使って、実際に数を書き込んだり長さなどを調べたりして、実感をもって理解できるようにする。 ・問題の場面設定を理解した上で、正しい立式を確かめたり、問題の解決方法を図や言葉などを使って説明したりする。また、必要に応じて、練習問題を用意し、文章問題を解く力を伸ばせるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算やわり算の筆算の仕方を理解し、正確に計算すること。 ・身近にあるものの長さや重さを推察したり、適切な単位を使ったりすること。 ・図形概念や性質を理解したり、立体の見取り図や展開図の書き方を理解したりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗法を繰り返し復習し、定着を図る。筆算では、算数ノートのマスを活用し、繰り上がりに気を付けていないに計算する時間をとる。また、計算力の定着を図るために授業の進行に合わせて練習問題を用意するとともに、年間を通して家庭学習でも繰り返し取り組めるようにする。 ・実物や身近な具体物について考えを広げ、ものの長さや重さを児童が実測する経験を増やし、量感覚を養うようにする。 ・正三角形や平行四辺形など図形をかいたり、それぞれの辺や角の長さや大きさを実際に比べたりすることで、共通点や相違点に気付くようにする。また、立体の見取り図をかく際は、包含用紙を使いかき方の手順を指導することで、奥行き出し方など手順通りに描けるようにする。
理科 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象へ進んで関わろうとする意欲を高めること。 ・科学的思考・表現力を高めること。 ・着目した自然事象を適切に比較しながら調べ、差異点や共通点を基に、問題を見い出したり、結果・考察を発表し伝え合ったりすること。 ・植物や昆虫の育ち方を理解すること。 ・感染症予防を意識した観察・実験を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察など体験的な活動や今までの経験などを想起し話し合う活動などを多く取り入れる。 ・自分の考えを実験・観察に生かし、与えられた実験をするだけでなく、児童に実験の条件や方法を考えさせたり、話し合わせたりにて問題解決の能力を少しずつ向上させる。 ・計画的に観察や実験を行い、気付いたことを自分の言葉でまとめたり、どのような考察の書き方がよいのか全体で共有したりする ・天候によって校庭に出られない場合や密を避けるために、クロムブックを使用した観察や映像などICT機器を活用する。 ・できるだけ実験器具などの共有を避ける。可能な限りペア、また個人で観察・実験を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然事象へ進んで関わろうとする意欲を高め、知識及び技能を定着させること。 ・季節ごとに自然の変化や生き物の様子を理解し、事実に即して記録すること。 ・水の三態変化を理解し、自分の考えをたて実験を行い、振り返りながら記録すること。 ・金属、水及び空気の温まり方や体積の変化の 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の仕方を実物や身の回りの事象を紹介するなど工夫し、児童の学習意欲を高める。単元のまとめで振り返りの問題に取り組んだり、適宜映像を見たりして既習事項を振り返り、知識の定着を確実にする。 ・年間を通して植物や生き物を観察させ、それらの変化を捉えさせる。記録のつけ方を合わせて指導する。 ・「自然の中の水」の学習と関連付けて学習する湯気と水蒸気の違い等、混乱しやすい事項が多いため、それぞれの水の状態について実験を通して実感を伴って理解できるようにする。 ・経験や既習学習を生かして、ものの温度と体積の関係を考えさ

	<p>実験を行い、振り返りながら記録すること。</p> <p>・感染症予防を意識した観察・実験を行う。</p>	<p>せる。また、実験の進め方については、課題、根拠のある予想、自分の考え・友達の考えを聞いて・やったこと、確かになったことの学習活動の流れを定着させる。</p> <p>・できるだけ実験器具などの共有を避ける。可能な限りペア、また個人で観察・実験を行う。</p>
音楽 3年	<p>・リコーダーの息の使い方とタンギングの仕方を理解し、良い音色で演奏すること。</p> <p>・呼吸や発音に気をつけて、自然で無理のない歌い方で歌うことができること。</p>	<p>・教師の範奏やCD音源などを活用して、リコーダーの音色の良さを感じ取るようにする。また、友達の音を聴き合いながら吹くことで、息の強さに気を付けたきれいな音色で演奏できるようにする。演奏の際には感染症予防としてパーテーションを利用し、間隔を開けるなどする。</p> <p>・階名唱の機会を多くもつことで、旋律の音の動きに気付かせ、子音・母音が明瞭で無理のない発声になるように気を付けさせる。また、感染症予防の観点からも、大きな声よりひびきのあるきれいな声を身に付けられるよう指導する。</p>
4年	<p>・音楽表現活動において、自分の思いや意図をもち、ふさわしい歌い方や演奏の仕方で行うこと。また、そのために必要な技能を身に付けて自信をもって発表すること。</p> <p>・曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付き、曲全体を味わって聴くこと。</p>	<p>・既習の楽曲を用い、スタッカートやスラーなどの表現方法や、強弱や速度などの違いによる表現方法などを様々に試すなどして、表現を工夫する楽しさを味わえる場面を多くつくる。思いを実現し、表現するための技能を身に付けた上で、自信をもって演奏できるようにする。表現活動の際には、感染症拡大防止のため、パーテーションを使用したり、間隔を開けたりする。</p> <p>・その曲において、指導の中心となる視点を明確にする。また、曲を聴く活動とともに、中心となる旋律を簡略化した譜例や楽器のイラストなどを用いて可視化し、音楽の構造に気付くようにする。</p>
図工 3年	<p>・意欲をもって取り組めるよう、素材から自由に発想したり、作りたいものを思いついたりすること。</p> <p>・工作の基本的な道具を、安全に気を付けながら使用できること。</p> <p>・自分たちの作品や身近な美術作品などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。</p>	<p>・素材と関わる時間を十分に設け、素材のよさを実感し、作りたいもののイメージを広げ深められるようにし、自分の作品のイメージをもてるように指導する。</p> <p>・金槌や釘など道具を使用する前に、安全な使い方やルールを明示し、きちんと守れているか確認を行う。</p> <p>・自分の作品について鑑賞カードを書くことで、作品のよさを友達に伝えやすいようにする。</p> <p>・自由に歩いて鑑賞した後、友達の作品のよさをカードに書く時間を設けたり、友達に自分の作品を語る場を設けたりすることを通して、色や形に対する見方を深め、友達の作品のよさを感じ取る視点を養う。</p>
4年	<p>・素材や活動に関心をもち、主体的に活動できること。</p> <p>・用具や材料を安全で適切に使えること。</p> <p>・豊かに発想したり、思いついたことから自分のイメージ、思いを広げていくこと。</p>	<p>・見通しをもちながら意欲的に学習に取り組めるように、素材や題材との出会い方を工夫したり、題材の流れを提示したりする。</p> <p>・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度によって個別に指導していく。道具の共用はできるだけ避け、必要な場合は消毒しながら使う。</p> <p>・形や色から発想を豊かに広げることができるよう、形や色に向き合う時間を十分に用意したり、発想を広げる視点を示したり、様々な発想を全体で共有し、認め合いながら自己の表現について考える時間を設けたりする。</p>
体育 3年	<p>・自分のめあてをもって運動に取り組み、めあてを達成させるために運動の仕方を工夫したり、自分にあつた場で運動したりすること。</p>	<p>・各領域で学習カードを活用し、運動のめあてをもたせる。運動に効果的な場を設定して自分にあつた場で運動できるようアドバイスする。活動を終えるときには自分の取り組みを振り返らせるようにする。</p> <p>・ペアやグループの学習を意図的に取り入れ、お互いの運動を見合う機会を作り、考えたことや気付いたことを伝え合うようにさせ</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・体のバランスをとったり、基本的な技を組み合わせる運動をしたりすること。 ・運動に合わせて、規則を工夫したり、作戦を考えたりすること。 ・ボールを投げる運動、投力を高める運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・る。また、アドバイスがお互いに行えるように、見るポイントをしっかり確認する。 ・ICTを活用し、友達のいいところを見付けたり、手本として真似したりすることで技のイメージをもたせ、出来を確認する。 ・日常的に体を動かすことにより体力向上を図る。 ・「ゲーム」の運動領域ではチームや友達と協力して、ルールを考えたり、簡単な作戦を考えたりする活動を意図的に取り入れ、お互いに考えたことを伝え合うようにする。作戦が成功したかどうかをチームでカードを活用しながら振り返り、次の運動につなげていくようにする。 ・遠くに投げることを意識できるように、手だけでなく、腰や肩を使った投げ方のフォームの指導や腰の捻転を意識させる。場の設定を工夫して取り組むようにさせる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を明らかにして運動に取り組み、めあてを達成させるために運動の仕方を工夫したり、自分にあった場を選んで運動したりすること。 ・自分の考えたことを他者に伝えること。 ・跳び箱運動など、腕で体を支える運動ができること。 ・体づくり運動を適宜取り入れ、体力を高めること。 ・運動の楽しさを味わえるようにルールを工夫すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元で学習カードを活用し、自分の課題をもたせる。密集を避けながら運動に効果的な場を設定し、自分で選べるようにする。授業の終わりには、自分の運動の様子を振り返らせるようにする。 ・感染予防対策を講じつつ技能ポイントを図や写真、実演などで示し、体のどの部分を意識して運動するのかを児童が理解できるようにし、見合いや助言の際の視点が分かるようにする。ペアやトリオ、グループ学習を取り入れ、自分たちで運動の様子を見合い、助言し合えるよう場や環境の工夫をする。 ・手の付き方や体を引き付けるタイミングなど、技能ポイントが自分では見えづらい部分が多い。友達と見合う際の視点をもたせたり、タブレットで自分の動きを録画したりして学習させる。ねこちゃん体操を取り入れる。活動前後は手洗いを行う。 ・密集を避けながら速さ、リズム、方向などを変えて這う、歩く、走る、跳ぶ、はねる、登る、下りるなどの動きで構成される運動や一定の速さでのかけ足などの運動を通して、体を移動する動きを身に付けるとともに持久力を養う。 ・運動経験の差を考慮し、児童の実態に応じてルールを変えながら、全員が運動の楽しさに触れられるようにする。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや身の回りのものについて、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を示しながら話したり、繰り返し音声を聞いたり、話したりする活動を行ったりすることで、基本的な表現に慣れ親しめるようにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことについて、動作を交えながら、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が伝えたいと思うような課題設定をする。 ・自分のことを相手に伝えるための工夫を考えたり、工夫(アイコンタクト、ジェスチャー、相づち)している児童を全体の場で取り上げたりして、相手に伝えることを大切に活動できるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の読み方を聞いた際に、どの文字であるか分かること。 ・自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合ったりすること。 ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物を見せながら、自分の考えや気 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生での既習であるローマ字を活用しながら、音に関するチャンツを聞いたり歌ったり、フラッシュカードに文字を表記したりして、文字に慣れ親しめる工夫をする。 ・授業の始まる挨拶をパターン化したり、既習事項を活かしてコミュニケーションを図る活動を頻繁に取り入れたりする。 ・教師とALTでよいモデルを示すことで、児童自身がイメージを持って活動に取り組めるようにする。 ・児童が伝えたいと思うような課題設定をする。

	持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話すこと。	
--	----------------------------	--